

シンポジウム

11:15～12:15 第1会場 大ホール

「学生と現役技師で考える

これからの臨床検査技師と技師教育」

市野 直浩（藤田医科大学 医療科学部）

村木 那緒（名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻）

奥深山 寛（藤田医科大学 医療科学部）

武田 祥也（中部大学大学院 生命健康科学研究科 生命医科学専攻）

伊藤 真由美（JA 愛知厚生連 安城更生病院）

井元 悠太（JA 愛知厚生連 豊田厚生病院）

司会 濱口 幸司（JA 愛知厚生連 安城更生病院）

大嶋 剛史（刈谷豊田総合病院）

「学生と現役技師で考えるこれからの臨床検査技師と技師教育」

「新たな臨床検査技師教育で臨地実習はどう変わるか？」

藤田医科大学 医療科学部 市野 直浩

「臨地実習で学んだこと 将来の臨床検査技師像について」

名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻 村木 那緒

「臨地実習を中心に考える将来の臨床検査技師像」

藤田医科大学 医療科学部 奥深山 寛

「臨地実習から考える臨床検査技師の姿」

中部大学大学院 生命健康科学研究科 生命医科学専攻 武田 祥也

「当院における臨地実習生に対する教育の取り組み」

JA 愛知厚生連 安城更生病院 伊藤 真由美

「若手技師の立場で語る検査室の景色」

JA 愛知厚生連 豊田厚生病院 井元 悠太

臨床検査技師を取り巻く環境に対応するため、厚生労働省の臨床検査技師学校養成所カリキュラム等改善検討会において教育内容の見直しが図られた。改正された指定規則において臨地実習生を指導する臨地実習指導者の要件が設けられ、臨地実習指導者が配置されている施設で臨地実習を履修することになる。また、本学会のテーマである“臨床検査の未来”を考えた場合、学生教育を始めとした人材育成は言うまでもなく重要な事項である。

本シンポジウムでは①教育現場からの視点で臨地実習指導者を概説、②臨地実習を終えた学生の視点で見えた臨床検査の現在と未来を共有、③現場で学生教育を担当されている臨床検査技師の学生教育の現状と工夫、④若手技師が感じた学生から臨床検査技師への成長を紹介していただく。様々な視点、視野、視座を共有し、これからの臨床検査技師と技師教育について考える時間にしたい。

演題番号：シンポジウム-1

演題名：新たな臨床検査技師教育で臨地実習はどう変わるか？

発表者：市野 直浩

所属：藤田医科大学 医療科学部 医療検査学科

臨床検査技師教育に関係する法律が一部改正され、2022 年度入学生から新たな臨床検査技師教育がスタートする。これまでの教育内容から多くの点で変更が行われることになるが、中でも臨地実習に関しては、その内容が大きく変わる。

臨地実習に関する主な変更点としては、単位数が 12 単位となり、そのうち 3 単位以上は生理学的検査に関する実習を行うこと、また学生に必ず実施・見学させる行為、実施・見学させることが望ましい行為が示された。さらに、5 年以上の実務経験を有し臨地実習指導者講習会を修了した臨地実習指導者を 1 名以上配置することが義務化された。一方、養成校に対しては、臨地実習前に技能修得到達度評価を 1 単位行うこと、

そして専任教員から臨地実習調整者を 1 名以上配置するが義務付けられた。

本講演では、臨地実習に関する変更点を整理するとともに、臨地実習指導者の役割を中心に説明する。また、養成校が行わなければならない技能修得到達度評価についても説明する予定である。

略歴

1985 年 3 月 藤田学園保健衛生大学 卒業

1985 年 4 月 藤田学園保健衛生大学病院 勤務

1994 年 12 月 藤田保健衛生大学 助手

2015 年 4 月 藤田保健衛生大学 教授

2019 年 4 月 藤田医科大学 医療検査学科長

演題番号：シンポジウム-2

演題名：臨地実習で学んだこと 将来の臨床検査技師像について

発表者：村木 那緒

所属：名古屋大学大学院 医学系研究科 総合保健学専攻医療技術学コース病態解析学分野 1 年

【臨地実習で学んだこと】

8 週間の臨地実習では、より専門的で実践的な知識を得ることができた。大学の講義で学べることは検査手順、検体の取扱い方、正常値などがあるが、実際に検体を扱うことはない。現場での患者検体の採取及び検査を行う姿から、検体と患者は表裏一体であることを再認識し、検体の重要性を実感することができた。特に印象に残っていることは検査データの捉え方だ。生化学検査では機械に表示されたデータをそのまま鵜呑みにするのではなく何を持って正確な値だとしているのか、異常値は本当に異常なのかデータを疑い真偽を確かめ裏付けるような姿勢が大切だと学んだ。

【将来の臨床検査技師像】

新型コロナウイルスの流行で簡易的な抗原検査キットや

PCR キットを目にすることが増えてきた。検査の専門家として私たちが何ができるか、病院内のみならず不安を持つ患者に寄り添うことのできる臨床検査技師が求められているように感じる。

演題番号：シンポジウム-3

演題名：臨地実習を中心に考える将来の臨床検査技師像

発表者：奥深山 寛

所属：藤田医科大学 医療科学部 医療検査学科

発表者は昨年10月～12月の3か月間で藤田医科大学病院・JA愛知厚生連安城更生病院にて臨地実習に参加させていただいた。学内での講義や実習にて学んだ知識・技術が現場ではどのように生かされているのかを見学・体験する中で将来自分が臨床検査技師として働くことについての具体的なイメージを持つことができた。

学内講義や実習では理解できていなかった点や臨床を見てさらに深く学ぶことのできた点が多くあり、自分の未熟さを痛感しながらも今後も続いていく学習に対して大きく希望の持てる充実した実習となった。

臨地実習を通して発表者の中で抱いていた臨床検査技師像の変化を中心に、今後どのような検査技師を目指し、どの

ようなことに挑戦していきたいかをまとめ、発表したい。

演題番号：シンポジウム-4

演題名：臨地実習から考える臨床検査技師の姿

発表者：武田 祥也

所属：中部大学大学院 生命健康科学研究科 生命医科学専攻

私の所属していた中部大学生命健康科学部生命医科学科では、臨床検査技師履修コースの学生が、4年次の1ヶ月間、様々な病院の臨床検査技師の先生にご指導をいただき、臨地実習に取り組んでいる。発表者もそのうちの一人であり、学内の講義や実習ではできない多くの貴重な経験をした。臨床検査技師の業務内容や、臨地実習のあり方が少しずつ変遷していく中で臨地実習での経験や、印象に残った言葉を軸に、発表を通して、学生として感じたことなど、率直な意見を提示するとともに、目指すべき姿を考察する。

演題番号：シンポジウム-5

演題名：当院における臨地実習生に対する教育の取り組み

発表者：伊藤 真由美

所属：JA 愛知厚生連 安城更生病院 保健事業部 健康管理室

当院は JA 愛知厚生連の病院の 1 つで、西三河南部医療圏の中核病院として、救急医療、がん診療、周産期医療、災害医療を担っています。また、地域の人材育成に取り組む教育病院でもあり、実習生や研修生を積極的に受け入れています。当院の検査室で、私は教育研修の担当者として若手の頃から、スタッフの教育、実習生のカリキュラム作成や運用に携わってきました。私自身も当院で臨地実習を受け、様々な経験をさせて頂き、充実した実習だった記憶があります。そのため、当院で臨地実習を受ける実習生にどのようにしたら満足してもらえるか？現場で働く臨床検査技師を知ってもらうためにはどうすればよいか？毎年、実習生にアンケートをとり、改善点を洗い出し、試行錯

誤しながら取り組んできました。新カリキュラムとなり、今まで以上に臨地実習の意義が高まります。今回は当院の取り組みを紹介させて頂き、今後よりよい臨地実習とするために皆さんと意見交換をさせて頂きたいと思います。

略歴

2007 年 3 月 藤田保健衛生大学 衛生学部衛生技術学科 卒業

2007 年 4 月 JA 愛知厚生連 安城更生病院に入職、臨床検査技術科にて検査業務に従事

2022 年 1 月 保健事業部 健康管理室へ異動、健康事業係長として健診業務に従事

演題番号：シンポジウム-6

演題名：若手技師の立場で語る検査室の景色

発表者：井元 悠太

所属：JA 愛知厚生連 豊田厚生病院

私は現在勤めている当院で、3 か月という長期の臨地実習を行った。当時は慣れない環境で苦戦し、知識の乏しさにも強く痛感していた。そんな私が国家試験に合格し、晴れて社会人になって大切だと感じたことは、検査室のチームワークである。

学生時代、入職後一人で検査を行えるか不安に思っていた。現在もその不安はあるが、自分で判断が難しい場面や悩む場面では、先輩技師に相談している。その際、その後の対応まで教えてくれるため、安心して業務に取り組んでいる。といった、入職後の体験をもとに学生さんが感じる不安や悩みを実体験として講演できればと考えている。また、学生時代に取り組んで

おけば良かったことや職場の雰囲気、学生時代に気になったことなど、今後羽ばたいていく学生さんへのアドバイスと明るい未来について語り合えたらと思う。

略歴

2020 年 3 月 熊本保健科学大学卒業

2020 年 4 月 JA 愛知厚生連 豊田厚生病院入職

2021 年 4 月 生理検査室配属